

平成23年度

# 追 跡 評 価 結 果

平成23年9月

広島県研究開発評価委員会

## 目 次

1 評価対象及び評価基準	1
(1) 評価の対象	1
(2) 評価基準	1
2 評価結果	3
(1) 評価結果一覧	3
(2) 評価委員会意見	5
 課題別追跡評価報告書	 7
 【参考資料】	
1 広島県研究開発評価委員会設置要綱	109
2 経 緯	110

## 1 評価対象及び評価基準

県立総合技術研究所の研究課題について、「広島県研究課題評価マニュアル」に基づき追跡評価を実施し、その結果を取りまとめた。

追跡評価は、終了後一定期間が経過した課題について、研究成果の活用状況や波及効果等に関する評価を行い、研究成果が及ぼす社会・経済等への効果を把握し、県民に対する説明責任を果たすとともに、研究開発の企画・立案機能の強化、成果移転の効果的な推進に資することを目的として実施するものである。

追跡評価は、「1）研究の達成度」「2）成果移転の目標達成度」「3）知的財産権の活用状況」「4）研究成果の波及効果」の4項目の視点に立って行う。

### (1) 評価の対象

19年度に終了した研究課題（研究終了後3年を経過した課題） 20課題

### (2) 評価基準

#### (ア) 個別評価基準（総合技術研究所による評価）

##### ① 研究の達成度

- A：成果は移転できるレベルにある。
- B：一部の成果は移転できるレベルにある。
- C：成果は移転できるレベルではない。

##### ② 成果移転の目標達成度

- |                     |                 |
|---------------------|-----------------|
| A：目標以上に達成           | 達成度120%以上       |
| B：ほぼ目標どおり達成         | 達成度70%以上～120%未満 |
| C：移転は行ったが、目標を下回っている | 達成度20%以上～70%未満  |
| D：移転は進んでいない         | 達成度20%未満        |

##### ③ 知的財産権の活用状況

- A：実施許諾し、事業化されている。
- B：実施許諾を行っている。
- C：実施許諾は行っていない。

##### ④ 研究成果の波及効果

- |                          |              |
|--------------------------|--------------|
| A：波及効果は大きい（効果は十分ある）      | 研究予算総額<<波及効果 |
| B：波及効果は認められる（効果は認められる）   | 研究予算総額≒波及効果  |
| C：波及効果はほとんど認められない（効果は薄い） | 研究予算総額>>波及効果 |

(イ) 総合判定基準

個別評価結果の適切性を含め、評価委員会として、総合評価を行う。

区分	内容
S	研究成果が十分に活用され、効果は当初見込みを上回っていると認められる。
A	研究成果が活用され、効果は当初見込みをやや上回っていると認められる。
B	研究成果が活用され、効果は当初見込みどおりであると認められる。
C	研究成果の活用が不十分で、効果は当初見込みをやや下回っていると認められる。
D	研究成果の活用が不十分で、効果は当初見込みを下回ると認められる。

2 評価結果  
(1) 評価結果一覧

表2-1 評価結果一覧(課題番号順)

番号	研究課題名	研究機関	個別評価				総合評価結果
			研究の達成度	成果移転の目標達成度	知的財産権の活用状況	研究成果の波及効果	
23-追跡-001	カキのウイルス学的安全出荷技術の創製	保健環境センター	A	B	A	A	S
23-追跡-002	発酵食品の高機能化を可能にする微生物利用技術の開発	食品工技センター	B	C	C	C	C
23-追跡-003	圧力による芽胞菌発芽誘導を利用した低温流通食品の殺菌技術の開発	食品工技センター	A	C	C	B	C
23-追跡-004	ダイヤモンドコーティング工具の開発	西部工技センター	A	C	C	B	C
23-追跡-005	摩擦撈拌接合技術を利用した新製造プロセスの創製	東部工技センター	B	C	C	C	C
23-追跡-006	周波数特化型自動車用防音材料の開発	東部工技センター	A	B	C	C	C
23-追跡-007	熱処理と樹脂含浸併用による低比重材の高強度化及び高寸法安定化	東部工技センター	A	C	C	C	C
23-追跡-008	地帯別ブランド広島米品種の育成	農業技術センター	B	C	A	A	A
23-追跡-009	傾斜地温州ミカンの省力低コスト栽培システムの開発	農業技術センター	A	D	C	C	D
23-追跡-010	無袋栽培ナシにおける防除要否判定基準の設定	農業技術センター	A	B	C	B	B
23-追跡-011	アスパラガス栽培の自然な立ち姿での収穫作業を目指した栽培管理技術の開発	農業技術センター	B	D	C	C	D
23-追跡-012	固期的殺菌法と天然素材固化培地によるバラの環境保全型養液循環式栽培技術の開発	農業技術センター	A	C	C	A	B
23-追跡-013	成分調整堆肥による土地利用作物の減化学肥料栽培技術	畜産技術センター	A	C	C	B	C
23-追跡-014	かき出荷安全対策技術開発	水産海技センター	B	D	C	C	D
23-追跡-015	天然遡上アコ回復研究	水産海技センター	A	D	C	C	D
23-追跡-016	バイオコントロール技術を応用した魚類餌料培養技術開発(医薬品に頼らない稚魚づくり)	水産海技センター	A	C	C	C	C
23-追跡-017	海水流動モデルを用いたかき採苗技術研究	水産海技センター	A	B	C	B	B
23-追跡-018	ITを使った森林調査の効率化に関する研究	林業技術センター	B	C	C	C	C
23-追跡-019	森林再生予測に基づく松枯れ跡地等荒廃林復旧技術の体系化	林業技術センター	A	B	C	B	B
23-追跡-020	スギ・ヒノキ育成林における立木在庫表示システムの開発	林業技術センター	A	B	C	B	B

表2-2 評価結果一覧（総合評価区分別）

番号	研究課題名	研究機関	個別評価				総合評価結果
			研究の達成度	成果移転の目標達成度	知的財産権の活用状況	研究成果の波及効果	
23-追跡-001	カキのウイルス学的安全出荷技術の創製	保健環境センター	A	B	A	A	S
23-追跡-008	地帯別ブランド広島米品種の育成	農業技術センター	B	C	A	A	A
23-追跡-010	無袋栽培ナシにおける防除要否判定基準の設定	農業技術センター	A	B	C	B	B
23-追跡-012	画期的殺菌法と天然素材固化培地によるバラの環境保全型養液循環式栽培技術の開発	農業技術センター	A	C	C	A	B
23-追跡-017	海水流動モデルを用いたかき採苗技術研究	水産海技センター	A	B	C	B	B
23-追跡-019	森林再生予測に基づく松枯れ跡地等荒廃林復旧技術の体系化	林業技術センター	A	B	C	B	B
23-追跡-020	スギ・ヒノキ育成林における立木在庫表示システムの開発	林業技術センター	A	B	C	B	B
23-追跡-002	発酵食品の高機能化を可能にする微生物利用技術の開発	食品工技センター	B	C	C	C	C
23-追跡-003	圧力による芽胞菌発芽誘導を利用した低温流通食品の殺菌技術の開発	食品工技センター	A	C	C	B	C
23-追跡-004	ダイヤモンドコーティング工具の開発	西部工技センター	A	C	C	B	C
23-追跡-005	摩擦攪拌接合技術を利用した新製造プロセスの創製	東部工技センター	B	C	C	C	C
23-追跡-006	周波数特化型自動車用防音材料の開発	東部工技センター	A	B	C	C	C
23-追跡-007	熟処理と樹脂含浸併用による低比重材の高強度化及び高寸法安定化	東部工技センター	A	C	C	C	C
23-追跡-013	成分調整堆肥による土地利用作物の減化学肥料栽培技術	畜産技術センター	A	C	C	B	C
23-追跡-016	バイオコントロール技術を応用した魚類餌料培養技術開発（医薬品に頼らない稚魚づくり）	水産海技センター	A	C	C	C	C
23-追跡-018	ITを使った森林調査の効率化に関する研究	林業技術センター	B	C	C	C	C
23-追跡-009	傾斜地温州ミカンの省力低コスト栽培システムの開発	農業技術センター	A	D	C	C	D
23-追跡-011	アスパラガス栽培の自然な立ち姿での収穫作業を目指した栽培管理技術の開発	農業技術センター	B	D	C	C	D
23-追跡-014	かき出荷安全対策技術開発	水産海技センター	B	D	C	C	D
23-追跡-015	天然遡上アユ回復研究	水産海技センター	A	D	C	C	D

## (2) 評価委員会意見

### 1) 総合評価方法について

- 総合評価に当たっては、4項目の個別評価結果を基に総合的に判定した。個別評価項目のうち知的財産権の活用状況については、知的財産権の取得だけでなく、実施許諾の有無を重視した。

### 2) 結果概要について

- 5つの評価区分（SABCD）のうち標準であるB評価以上の課題は7課題であった。そのうちS評価は1課題、A評価は1課題あった。

#### <総合判定基準 再掲>

- S 研究成果が十分に活用され、効果は当初見込みを上回っていると認められる。
  - A 研究成果が活用され、効果は当初見込みをやや上回っていると認められる。
  - B 研究成果が活用され、効果は当初見込みどおりであると認められる。
  - C 研究成果の活用が不十分で、効果は当初見込みをやや下回っていると認められる。
  - D 研究成果の活用が不十分で、効果は当初見込みを下回ると認められる。
- 知的財産権の活用状況については、特許権又は育成者権の実施許諾を行った課題がそれぞれ1課題あった。
  - 一方、C及びD評価は、13課題であった。これらの課題は研究成果の活用状況に関する評価が低いため、総合的な判定においても低い評価となったものである。今後は、研究開発の企画立案の際、並びに研究期間終了時に知的財産権の取得や成果移転方法等について、これまで以上に配慮されたい。

### 3) 今後の対応

- 追跡評価は、研究成果の県民への説明責任だけでなく、研究開発マネジメントの改善、研究課題の企画立案能力の向上、成果移転のマネジメント等に有効であると考えられる。継続して実施すべきである。
- また、「アスパラガス栽培の自然な立ち姿での収穫作業を目指した栽培技術の開発（23-追跡-011）」課題については、平成24年度に収穫ハサミの製品化が予定されており、今後、栽培農家への技術移転等によって大きな成果が期待できるので、更なる追跡評価を実施されたい。





# 課題別追跡評価報告書



## 目 次

番号	研究課題名	研究機関	ページ
23-追跡-001	カキのウイルス学的安全出荷技術の創製	保健環境センター	11
23-追跡-002	発酵食品の高機能化を可能にする微生物利用技術の開発	食品工業技術センター	17
23-追跡-003	圧力による芽胞菌発芽誘導を利用した低温流通食品の殺菌技術の開発	食品工業技術センター	21
23-追跡-004	ダイヤモンドコーティング工具の開発	西部工業技術センター	27
23-追跡-005	摩擦攪拌接合技術を利用した新製造プロセスの創製	東部工業技術センター	33
23-追跡-006	周波数特化型自動車用防音材料の開発	東部工業技術センター	39
23-追跡-007	熱処理と樹脂含浸併用による低比重材の高強度化及び高寸法安定化	東部工業技術センター	45
23-追跡-008	地帯別ブランド広島米品種の育成	農業技術センター	49
23-追跡-009	傾斜地温州ミカンの省力低コスト栽培システムの開発	農業技術センター	55
23-追跡-010	無袋栽培ナシにおける防除要否判定基準の設定	農業技術センター	59
23-追跡-011	アスパラガス栽培の自然な立ち姿での収穫作業を目指した栽培管理技術の開発	農業技術センター	65
23-追跡-012	画期的殺菌法と天然素材固化培地によるバラの環境保全型養液循環式栽培技術の開発	農業技術センター	69
23-追跡-013	成分調整堆肥による土地利用作物の減化学肥料栽培技術	畜産技術センター	73
23-追跡-014	かき出荷安全対策技術開発	水産海洋技術センター	79
23-追跡-015	天然遡上アユ回復研究	水産海洋技術センター	85
23-追跡-016	バイオコントロール技術を応用した魚類餌料培養技術開発 (医薬品に頼らない稚魚づくり)	水産海洋技術センター	89
23-追跡-017	海水流動モデルを用いたかき採苗技術研究	水産海洋技術センター	93
23-追跡-018	ITを使った森林調査の効率化に関する研究	林業技術センター	97
23-追跡-019	森林再生予測に基づく松枯れ跡地等荒廃林復旧技術の体系化	林業技術センター	101
23-追跡-020	スギ・ヒノキ育成林における立木在庫表示システムの開発	林業技術センター	105

